



新春に語る津山の未来

昨年11月に市政アドバイザー制度が発足しました。新春を迎えるにあたり、市長を交え3人のアドバイザーにこれからのまちづくり・人づくりについて語っていただきました。



井田 章子さん

杉山 重利さん

小宮山 潔子さん

桑山市長

夢咲くまちづくり 輝く人づくり

市長 明けましておめでとうございます。

私は、昨年市長を拝命し、タイミング良く今後10年間の総合計画を作ることになりました。そのときに一番の命題は何かと考えました。今まで政治や行政は、豊かさを求めてきました。豊かさも大切しかし、最後はしあわせではないだろうかと思われました。そこで究極の目標に掲げたのが「しあわせ大国つやま」。大国としたのは、故郷や偉大な先人に対する誇りと津山を立派にしたい思いからです。和銅6年(713)美作の国ができました。この美作地方は、現在それぞれの分野で活躍しているみなさんや、歴史上では算作家や宇田川家などの洋学者をはじめ、多くの人材を輩出しています。その美作の中心津山は、伝統的に教育を大事にしてきたところ。今後もし引き続き、人づくりに力を入れなければと思っています。

このたび、津山を発展させていくために様々なアドバイスを受けたいと、市政アドバイザー制度を設けました。今日は3人の先生に来ていただいています。まず今の津山の印象や思い出話などをお聞かせください。

私の夢を膨らませたまち津山

井田 私は旧久米町で育ち、高校卒業後、上京して43年になります。

私にとって津山は、唯一身近な都会。映画をよく見に来ており、映画を見ては将来に夢を膨らませていました。津山というのはこのように私の将来の夢と出会うまちでした。

◇市政アドバイザー制度◇

全国で活躍している郷土ゆかりの人々に、次の時代を見据えた未来志向型のまちづくりのために専門分野の知識や広い経験に基づいた提言をいただこうと、昨年11月に設置。今回、30人にアドバイザーをお願いしました。

昔と変わったと思うのは、実家の近くに中国道が通っており、これが以前のまちの雰囲気大きく変えていることです。帰省した折には、親戚に宿をしてもらい、いろんなどころに連れて行ってもらいますが、ほとんど車です。自動車によって生活圏が格段に広がったと実感します。距離を時間でクリアし、今や世界中に瞬時に情報が行き渡る時代。故郷を後にしたこの40年は、故郷だけでなく日本全体が大きく変わった40年でした。でも、一番変わったのは、かつて18歳だった私が年を重ねて今ここに立っている。このことが一番大きく変わったことですね(笑)。